



未来へ

埼玉県立川越高等学校
進路通信「未来へ」1号
令和5年4月10日
発行 進路指導部

◎ 過去3年間の主要大学入試結果 (4/10 現在)

国公立大学	2023春	2022春	2021春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
北海道大	12 (10)	10 (9)	7 (6)
東北大	16 (11)	13 (10)	12 (6)
筑波大	13 (12)	11 (7)	6 (3)
埼玉大	22 (18)	29 (23)	22 (15)
千葉大	7 (5)	12 (10)	10 (9)
東京大	5 (4)	1 (1)	4 (1)
東京工業大	7 (2)	7 (6)	10 (4)
一橋大	6 (5)	9 (6)	8 (5)
東京農工大	12 (10)	13 (11)	17 (11)
東京学芸大	3 (3)	11 (10)	9 (5)
東京芸術大		1 (1)	
東京外国語大		4 (2)	3 (3)
東京海洋大	2 (2)	3 (3)	4 (4)
電気通信大	5 (5)	6 (4)	5 (5)
横浜国立大	12 (9)	11 (6)	12 (7)
名古屋大		1 (1)	2
京都大	6	4 (1)	5 (2)
大阪大	2 (2)	4 (3)	4 (1)
神戸大		1 (1)	
九州大	5 (3)	2 (2)	2 (1)
東京都立大	3 (3)	7 (5)	11 (10)
その他の大学	23 (15)	25 (18)	30 (18)
合計	161 (119)	185 (140)	183 (116)

私立大学	2023春	2022春	2021春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
早稲田大	90 (64)	72 (46)	118 (72)
慶應義塾大	41 (18)	39 (20)	51 (28)
上智大	13 (8)	11 (3)	26 (16)
東京理科大	93 (61)	108 (78)	107 (59)
明治大	142 (111)	126 (90)	166 (103)
青山学院大	14 (13)	12 (7)	19 (11)
立教大	53 (42)	43 (27)	37 (24)
中央大	63 (50)	87 (53)	65 (42)
法政大	93 (72)	66 (44)	76 (38)
学習院大	18 (17)	23 (16)	18 (9)
芝浦工業大	52 (39)	86 (61)	57 (35)
私立医学部(医学科)	8 (1)	7 (1)	9 (4)
その他の大学	259 (167)	291 (151)	328 (168)
合計	931 (662)	964 (596)	1068 (605)

◎ 東京大内訳

文科Ⅰ類	1	(1)
文科Ⅲ類	3	(2)
理科Ⅱ類	1	(1)
計	5	(4)

◎ 国公立医学部内訳

弘前大	1	(1)
千葉大	1	
信州大	1	(1)
防衛医大	1	
計	4	(2)



	2023春	2022春	2021春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
国公立難関大※	63 (39)	61 (43)	63 (29)
国公立医学部(医学科)	4 (2)	11 (4)	9 (3)

※ 旧帝大+東工大・一橋大・国公立医学部

※ 防衛医大を含む

昨年度の入試全体を振り返って

大学入学共通テスト3年目となり、大きく平均点を下げた一昨年からどう変わるのか（あるいは、変わらないのか）が注目されましたが、一昨年大きく難化した数学が平均点を6割前後に戻したことで、5教科総合の平均点もほぼその分上がり6割前後となりました。平均点が上がったことで国公立大への出願も多少は強気なものになりましたが、前期も後期も欠席率は依然として高く、なるべく早期に入試を終わらせたいという受験生全体の動向は、ここ数年と変わらない印象です。

私立大学入試については、2016年度から続いていた定員管理厳格化が緩和（定員の基準を入学定員ではなく全学年の総定員へ変更）されたことで、実質的な定員増のような状況となりました。

本校の入試結果を振り返って

昨年度の3年生は入学時から臨時休校を経験し、その後も分散登校や学級閉鎖を経験するなど、コロナ禍の影響を最も受けた学年のひとつと言えるかもしれません。そういった厳しい状況乗り越えて、昨年度の3年生も素晴らしい結果を残しました。

国公立大学については、過去2番目となる現役合格119名となりました。旧帝大以上のいわゆる国公立難関大の合格者数も39名と過去2番目になっており、質と量を兼ね備えた結果となりました。一昨年から続いているが、学年の約3分の1の人数が現役で国公立大学合格、うち約1クラス分は難関国公立大に現役合格したとも言え、今後の学年のベンチマークにもなる素晴らしい結果でした。

昨年度も良い結果が出た要因としては、ひとつにコロナ禍の中でも継続的な学習を進められた生徒が多かったことが挙げられます。度々あった登校できないような厳しい時期でも、その中で着実に学習を重ねられた生徒が多く合格しました。リモート授業になることも多々ありましたが、授業や課題を学習のペースメーカーとして5教科のバランスを保てた生徒が多かったことも、この結果につながりました。ふたつめの要因としては、授業での指導や進路指導を素直に受け止めて、最後まで頑張る生徒が多かったことが挙げられます。上述したように共通テストの平均点は一昨年度より上がりましたが、点数の変動に左右されず、第一志望へしっかりと出願した生徒が多く合格しました。また、後期まで気持ちを切らさず受験した生徒も多く（後期で現役国公立大30名以上）合格しました。

今年度も入試の動向は変化していく可能性はありますが、どう変化しても条件は受験生全員が同じですし、国公立の2次試験で必要な学力は変わりません。学力は、学習した時間と内容に比例して必ず伸びます。難関大を志望している人は特に、早期からの学習の積み重ねを心がけてください。勝負は入学時から始まっています。2・3年生はもちろんのこと、1年生も日々の学習を積み重ねていって下さい！

まずは学習習慣の確立を！！<今年も！！>

毎年のこの号に載せていますが、今年もまた改めて載せます。日々の学習の参考にしてください。

(1) 毎日の絶対的な学習時間を確保する

部活や行事などで忙しい毎日ですが、日々の学習なしでは学力向上は望めません。すき間時間（電車などの通学時間、学校での休み時間など）を活用するのはもちろんですが、特に数学や理科の問題にじっくり取り組むために、まとまった時間（最低でも1時間以上）を作り出してください。食事の前、寝る前、朝早くなど、生活スタイルによってタイミングは違うと思いますが、毎日固定すると続けやすくなります。毎日の学習時間の総合計としては、平日：(学年+1)時間、休日：(学年+3)以上を目指してください（難関大志望者は平日：(学年+2)時間、休日：(学年+4)時間以上）。余談ですが、過去；東大と医学部に合格した先輩は、それぞれ夏休みに合計500時間（1日平均10時間以上）やっていました。時間をしっかりかけた学習をしましょう。あと、スマホは1日30分まで！！<某予備校の調査では、現役合格者の1日のスマホ平均使用時間は、ゲーム0分、ラインなどの連絡・通話30分、でした！！>

(2) 目標を高く持つ

大学入試で大切なのは、“行きたい大学”を高く掲げることです。“東大とか自分が目指しているのかな…”と言う人もたまにいますが、川越高校に通っている以上、どの大学も目指す資格があります。自分がどこまで伸びるのかにチャレンジするのも、大学受験の大きな意義のひとつです（川越高校生は目標とした大学の分だけ伸びます）。“この大学を志望しているんだ！！”と臆せずと言ってください。同じような仲間がきっといるはずです。そういう仲間をお互いに見つけて、時には励ましあいながら切磋琢磨してください。我々も皆さんの志望校への頑張りを全力でサポートします。